

施工要領書

クッションフロア 標準施工方法

主な特徴

ビニル素材のため、急激な温度変化による伸縮、低温時の巻き癖などのトラブルが考えられる。また目地が少ないため、下地の湿気が抜けにくく接着剤の乾燥も遅い。特に溶剤形の接着剤は、溶剤と湿気との反応で発生するガスが抜けず膨れの原因になりやすい。

施工工程



①環境・下地の確認調整

施工時の環境（湿気、温度など）を確認する。問題がある場合は改善策を講じる。

下地の種類、状態（湿気、平滑性、汚れ、表面強度、合板などの場合のたわみ、段差、亀裂など）を確認する。問題がある場合は改善策を講じる。

②清掃

床の汚れ・ゴミ・ほこりなどは接着剤の効力を弱めクレームの原因に繋がるため、清掃にて確実に取り除く。

③下地補修

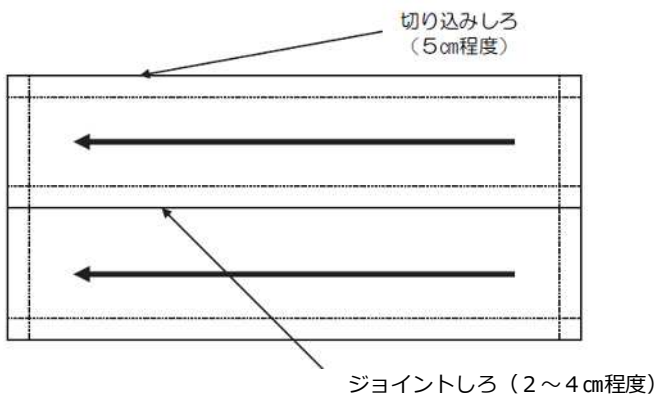
下地を確認した時点で、亀裂が認められたとき、平滑でないときなど、リフォームコート・フロアセメント等で凹部を埋めて補修する。

施工要領書

クッションフロア 標準施工方法

④ 割り付け

- ・ ジョイントが多くなると仕上がりが美しくないため、できる限りジョイントが少なくなるように割り付けする。小さなサイズは美観を損ねるだけでなく、接着不良による浮き剥がれの原因になるので注意する。
- ・ 出入口部は踏み込みが多くジョイントからの痛みや剥がれが起きやすいため、出入口部にはできるだけジョイントがこないようにする。また、窓、家具や什器の付近も人がよく通り接合部が痛みやすいため、できるだけ避けるように墨出しする。

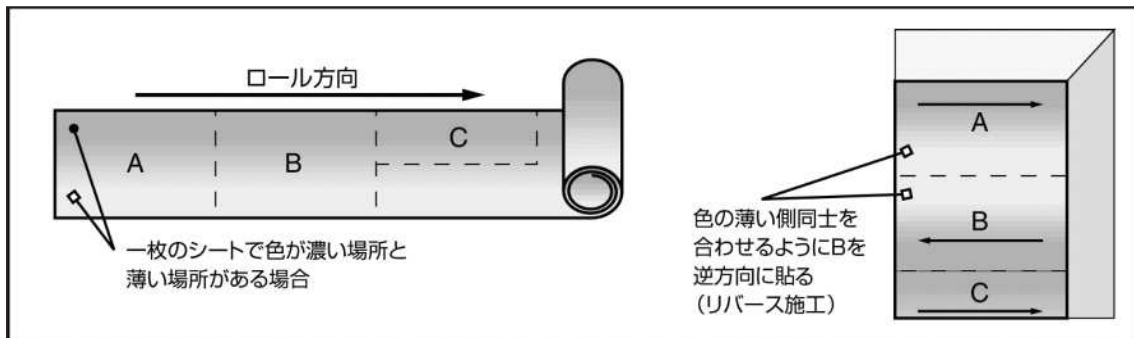


⑤ 荒切り・色柄合わせ

部屋の形・貼る方向などに合わせて割り付けし、それに基づいて実寸法より5cmほど長めに荒切りをする。柄物は、幅継ぎの必要がある場合は、1柄分余分に長く裁断し柄合わせをする。丈継ぎの必要がある場合は、さらに1柄分長く裁断し、丈継ぎのジョイントと合うように柄を合わせていく。

《リバース工法》

ビニルシートの多くは幅が約180cmと広いため、製品によっては左右の幅の端で色が微妙に違っている場合がある。そのような場合にシートの天地方向を逆さまに交互に貼り合わせる施工方法をとる。これをリバース施工という。天地を逆さまにすることでジョイント部の微妙な色違いを目立ちにくくする。ただし無地でリピートのない床材のときに採用する工法である。



施工要領書

クッションフロア 標準施工方法

⑥ 仮敷き

現場の環境になじませ、運搬時の巻癖、伸縮などを取り除くために荒切りして仮敷きする。特に低温時や寒冷地の場合、シートが硬くなっているため十分な仮敷き時間をとる。

⑦ 裁断

《巾定規による壁際の裁断》

巾定規は、壁面に対して床材の端がピッタリと沿うように裁断する道具である。巾定規の先端にカッターナイフをあて壁方向に沿わせるように力を加えながら手前方向にカットしていく。



《トリマーによる壁際の裁断》

パーキリなどのトリマーを用いて裁断すると迅速にカットできる。



《ジョイントの裁断》

ジョイント部は隙間なくピッタリと納まることが大切となるため直定規による重ね切り、ジョイント用工具等を用いてカットする。



⑧ 接着剤の塗布

- ・ 吸収性のある下地（モルタルが多い）の場合、下地の水分グレードがⅠ（水分計 D.MODE440 未満）のときは、ゴム系ラテックス形、またはアクリル樹脂系エマルジョン形接着剤を指定のくし目ごてを用いて使用する。水分グレードがⅡa（D.MODE440 以上 620 未満）の場合は、ウレタン樹脂系溶剤形、またはエポキシ樹脂系溶剤形接着剤を使用して耐湿工法で施工する。

※日本インテリア協会 耐湿工法用 下地水分指標

※使用水分計：(株)ケット科学研究所 高周波静電容量式水分計「HI-520-2」

（D.MODE、厚さ 40mm 程度、温度 AUTO）

- ・ 非吸水性下地（鉄板下地、重ね貼り、石、塗床など）の場合は、ウレタン樹脂系溶剤形、またはエポキシ樹脂系溶剤形接着剤を指定のくし目ごてを用いて使用する。

※接着剤のオープンタイム・貼り付け可能時間・圧着可能時間は温度・湿度により大きく左右されるため、施工時の温度・湿度には十分に注意し塗布量を定める。エポキシ樹脂系溶剤形接着剤を使用する場合は指定の混合比を守り、必要量のみを混合し、貼り付け可能時間を注意する。貼り付け可能時間を超えた場合、接着不良の原因となるため注意を要する。

施工要領書

クッションフロア 標準施工方法

《接着剤の塗布の仕方》

接着剤を塗布する方法は、部屋の形・面積などに応じて2通りある。

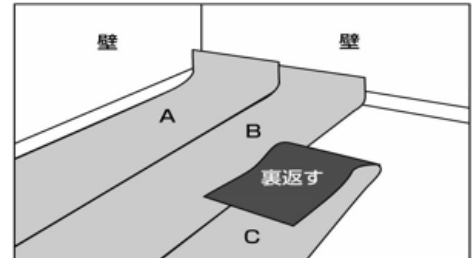
・幅折り返し（観音開き）

長さ方向 5m 未満の室内では、周囲の壁際を先に切り込んでからシートを接合部から幅方向に向かって左右に折り返し、その部分に接着剤を塗布し圧着する。そして残りの半分をそれぞれ折り返し接着する。



・長手折り返し（胴めぐり）

広い部屋（長さ方向 5m 以上）の室内では、長手方向のみ壁際の切り込みを行い、接着剤を塗布していく。シートを長手方向両側から折り返して片側ずつ接着・貼り付け・圧着を行っていく。



⑨貼り付け・圧着

オープンタイムをとり、貼り付け可能時間内にシートを貼り付け、しごき板でエア抜きを行う。空気だまりがあるようならば、しごき板で目地の方向に向かって押し出す。空気だまりは下地の湿気の影響を受けて膨れの原因になりやすいため、小さなものでも見逃さず必ず取り除く。



⑩継ぎ目処理・養生

《継ぎ目処理》

・シーム処理

シームシーラーを使用する。継ぎ目部分が完全に硬化するまでは、ずれの恐れがあるので歩行には十分に注意する。シーム液がはみ出したときは、すぐに拭き取る。継ぎ目のシート接合具合は十分に注意する。



施工要領書

クッションフロア 標準施工方法

《養生》

施工完了後、床材の浮き、膨れ、剥がれ、突き上げなどの不備、接着剤などによる汚れがないかを確認して監督者と協議の上、床面の汚れや破損を防止するため下記のような処置を行い、必要に応じて養生シートなどで保護する。

- ・土足進入による汚染・損傷を防ぐために土足禁止にする。
- ・養生シートを用いて床面の養生（テープで固定するときは、必ず、床面を汚染や変質させにくいアクリル系粘着テープを使用）を行う。
- ・接着剤が完全に乾燥固化するまでは突き上げ・目すき・膨れなどを発生させる恐れがあるので重量物などのキャスターによるしごきは避ける。